

令和 6 年度の取組結果の報告について

I 今年度の取組報告（ステージ別の取組）**ステージ I 介護予防の取組****1 改訂版エンディングノートの普及・啓発**

市内の出先機関（地区会館・図書館等）に設置するとともに広報やホームページにて周知した。
守山顔の見える会や介護支援専門員研修会などの機会を利用して関係者へ配布した。

(1) 配布数

令和 6 年度：2,656 冊配布

延べ配布数(平成 27 年度から令和 7 年 3 月末まで)：約 24,524 冊

(2) 出前講座（エンディングノート）の開催および結果

回数	日時	対象講座	参加者数
1	6 月 6 日	65 歳からの過ごし方教室（北部・速野会館）	7 人
2	6 月 25 日	エンディングノート講座（回想法ボランティアいきいき）	25 人
3	7 月 11 日	65 歳からの過ごし方教室（南部：あまが池プラザ）	21 人
4	9 月 15 日	エンディングノート講座（今宿自治会）	100 人
5	10 月 22 日	エンディングノート講座（立入自治会）	15 人
6	10 月 28 日	エンディングノート講座（啓発展示期間最終日：図書館）	27 人
7	11 月 12 日	65 歳からの過ごし方教室（中部：図書館）	12 人
8	2 月 1 日	エンディングノート講座（中野自治会）	18 人
9	2 月 13 日	エンディングノート講座（ネオベラヴィータ）	12 人
10	2 月 14 日	エンディングノート講座（十四日会）	10 人
合計			247 人

【参加者の声】

- ・エンディングノートを書こうと思っていますが、子供たちの意見もあり、思う通りにはいかないと思う。
- ・エンディングとは今まで話を遠ざけてきましたが、心がなごみました。
- ・堅苦しく考え、なかなか手に取る事がなかった。話を聞いて、少し前向きになった様な気がする。
- ・エンディングノートは持っていたが、今まで書こうと思わなかった。今回の話を聞いて、大変参考になった。
- ・対話カードは楽しかった。自分の思っていることを言葉にして、人に伝えることで、自分のことが分かった。
- ・家族ともよく話し合い、ノートを完成したい。
- ・エンディングノートを書いてみて、自分の気持ちややるべきことが明確になるだろうと思うと、有意義な講座だったと思う。

(3) 図書館での啓発展示およびエンディングノート講座の開催および結果

滋賀の医療福祉を守り育てる月間に、多世代が集う図書館を活用し、在宅医療・在宅看取りの普及・啓発に努めた。

項 目	啓発展示	エンディングノート講座
目 的	在宅療養・看取りに関する知識の普及	書く目的や書き方を学ぶ。
時 期	10月21日（月）～10月28日（月）	10月28日（月）午後2時から3時30分まで
場 所	図書館ギャラリー	図書館多目的室
内 容	・パネル展示 ・メッセージツリー ・看取り川柳の展示（県から借用） ・啓発グッズの配布 ・エンディングノートの配布 ・（新）薬剤師会の協力のもと、地域連携薬局の周知（チラシの配布）	・エンディングノートとは何か。 ・もしバナカードを使ったグループワーク ・医療や介護が必要になったら ・エンディングノートの書き方
効 果	・誰もが気軽に行ける場所に展示したことで、様々な年齢層に啓発できた。 ・地域の役員の方から「エンディングノートの出前講座」の依頼など、展示や内容に興味を持たれていた。	・27名（男性7名・女性20名）が参加 ・参加者の8割以上がエンディングノートを「書いている。」「書こうと思う。」と回答。

▼図書館での展示の様子



▼講座の様子



(4) 広報もりやまの特集記事の掲載 (10月1日号)

【掲載内容】「住み慣れた自宅や地域で“自分らしく”生活するために」をテーマに在宅療養・看取りに関する事柄についてQ&A形式で掲載。

住み慣れた自宅や地域で“自分らしく”生活するために…

在宅医療・介護連携サポートセンター ☎(581)0340 ☎(581)0203

「住み慣れた自宅や地域で最期を迎えたいけれど、実現は困難では」と、不安に感じています。病気がけが、加齢などで心身の動きや機能が低下し、今までどおりの生活が困難になった場合で

か。も、必要な医療・介護サービスを受けることで、自分らしい生活を続けることができます。

在宅療養に関するQ&A

Q1 自宅で療養し、安心して最期を迎えることができるのですか。

A1 在宅医、看護師、ヘルパーなどの訪問や、ベッドなどの福祉用具の利用など、医療・介護サービスが自宅での療養をサポートします。
また、がんなど重篤を伴う状態では、訪問診療、訪問看護や緩和ケアなどによる訪問により、苦痛の緩和やコントロールを行いながら療養することができます。

用語解説 訪問診療・薬剤師による訪問

近頃は難しいといいますが、医師が定期的に自宅に訪問して診療を行います。薬剤師が自宅に訪問して、薬の飲み合わせや副作用のチェック、処方薬の管理調整などを行います。



Q2 支えてくれる家族の負担が心配です。

A2 家事支援や身体介護を行うヘルパー（訪問介護）、施設に運び、入浴や食事などの介護や機能訓練を受ける「デイサービス（通所介護）」、短期間施設などに宿泊できる「ショートステイ（短期入所）」などを利用して、家族の介護負担を軽減することができます。

Q3 緊急時の対応が心配です。

A3 緊急対応が可能な往診医や訪問看護師の話をケアプランに伝言付け、緊急時に診療や治療を受けることができます。

用語解説 訪問看護

自宅に看護師や理学療法士などが訪問して心身のケアを行います。



Q4 療養は家以外の施設や病院などを選択してもよいのですか。

A4 人生の最期をどこで、どのように過ごしたいかは人それぞれです。望む療養生活や看取りができるよう、本人の思いを家族などの大切な人と共有しておくことが大切です。かかりつけ医やケアマネジャーなどの支援者にも共有しておきましょう。早いうちから相談し、希望を伝えておくことが大切です。

用語解説 ケアマネジャー

本人や家族の望む生活が実現するよう、希望や心身の状態を確認して、その人に合った介護サービスの計画（ケアプラン）を立てます。

希望する療養生活や最期を迎えるために準備しておきたいこと

考えてみましょう

これまでの人生を振り返り、これからどうしたいか改めて考えてみましょう。
・自分はどんなことを大事にしてきたか、大事にしていたか。
・最期は、どこで・どんなふうに迎えたいか。

話し合いましょう

最期まで自分らしく暮らすためには、自分の思いを話し、ご家族や大切な人と共有しましょう。
・これからどうしたいか。
・どんなことをしてみたいか。
・どんな苦痛を受けたいか、受けたくないか。

エンディングノートを活用して書き留めておきましょう

思いや考えは状況によって変化します。いつでも書き直しができます。告げるところから書きはじめてみましょう。

余生ではない、最期まで自分らしい人生を



エンディングノートは自分に何かあった時に困らないようにするためだけでなく、人生を振り返り、これからどう生きるか、これから何を大事にしていきたいかを考えるきっかけになるものです。年齢に関係なく、自分の思いをつづり家族へ残すことに意味があります。生活の変化や節目ごとに「考え、話し合い、書き留める」を繰り返すことでよいでしょう。
在宅として、日常の患者さんとして、一般診療ではできない治療や介護を、家族や介護スタッフみんなで支えることができるのが、在宅療養の一番良いところだと思います。
最期らしい暮らしを、医療・介護・在宅に携わる多職種が連携して支えるために、同じ考えや思いが共有されている方がよいです。

在宅医療・介護を知ってもらうための取り組み

展示コーナー

在宅医療や在宅看取りに関する展示を行います。エンディングノートや看取りに関するグッズなども多数展示しますので、ぜひお越しください。
☎10月21日(土)～26日(月)
午前9時～午後9時
(初日午後1時から、最終日午後3時30分まで)
☎市立図書館 2階ギャラリー

エンディングノートの書き方講座

これからの人生を考えるきっかけとなる講座を開催します。エンディングノートの書き方について学んでいただけます。
☎10月28日(月) 午後2時～3時30分
☎市立図書館 多目的室
☎10月21日(月) までに在宅医療・介護連携サポートセンターへ申し込み。

ステージⅡ 医療・介護サービスの利用等

1 在宅医療・病診連携ハンドブックの更新および配付

在宅医療・介護連携の推進強化を目的に、守山野洲医師会と協働で作成している地域の医療機関情報を掲載した「在宅医療・病診連携ハンドブック」を作成し、診療所、病院、居宅介護支援事業所、訪問看護事業所へ配付した。

2 「介護サービス事業所情報」（冊子）の更新および配付

介護サービスの周知啓発を図るため、医療・介護サービス関係者および市民へ配付するとともに、ホームページにも掲載し、市民が自らサービスを選択し、活用できるよう情報提供に努めた。

3 在宅医療・介護連携に関する相談支援

在宅医療・介護を支える関係機関と連携を図りながら、高齢者が安心して在宅で療養ができるように、市民や介護者等の相談に応じ、適切な医療・介護サービスの提供等に努めた。

相談件数	実人数：246人、件数：延524件（令和7年3月末）
主な相談内容	がん終末期の方の医療連携、ケアマネジャーの選定支援 介護保険の申請支援など

4 医療・介護関係者の研修

(1) 守山顔の見える会の開催

守山野洲医師会との協働により、多職種がそれぞれの専門性についての理解を深め、顔の見える関係性の構築や連携を強化することを目的に2か月に1回開催し、8月8日には第60回の記念講演を実施した。参加者からは、グループワークは顔の見える関係が築けると好評であり、活発な意見交換と情報共有の場になっている。

回	開催日	内容	参加者数
58	4月11日	認知症の医療とケア-新たな時代へ- 講師：医療法人藤本クリニック院長 藤本 直規 氏	90人
59	6月13日	「回復期リハビリから在宅リハビリへの現状」 講師：社会福祉法人恩賜財団 済生会守山市民病院 リハビリテーション技術科 技師長 中川 裕規 氏	85人
60	8月8日	《第60回記念講演》 「総合診療医の養成と在宅医療～竜王町で行っていること～」 講師：滋賀県医師会 理事 雨森 正紀 氏	94人
61	10月10日	警察署と消防署の取組について 講師：守山警察署生活安全課 生活安全係 係長 野村 宗佑 氏 湖南広域消防局 北消防署 副署長 高橋 一貴 氏	80人
62	12月12日	在宅における薬剤師との連携について 講師：すこやか薬局 管理薬剤師 松本 広美 氏	56人
63	2月13日	内容：在宅歯科の現状と課題 講師：おくむら歯科医院 奥村 喜与子 氏	51人

【参加者の声】

- ・本人が希望しない延命や蘇生が行われないように、普段から本人・家族との情報共有が大切であると改めて感じた。(第 61 回/医師)
- ・在宅療養の活性化、地域医療・介護の連携の広がりこれからお願い、一緒に支えていきたいと思う。(第 60 回/看護師)
- ・「最期を迎えるのは自宅でも、そうでなくてもどちらでもよい。ただ、自宅という選択肢がないのはいけない。」という言葉が心に響き、心に残った。(第 60 回/社会福祉士)

(2) 介護支援専門員研修会の開催

	日付	テーマ	参加者数
1	5 月 23 日	「高齢者の虐待予防と対応・ケアマネジャーの役割」 びわこ福祉の杜 社会福祉士 中原 一隆 氏	46 人
2	7 月 18 日	認知症の人の意思決定支援 NPO 法人成年後見センターもだま 所長 竹村 直人 氏	35 人
3	11 月 20 日	複合的な課題を抱える人への家族を含めた支援 守山市健康福祉部 生活支援相談課 担当係長 大木 あかね 氏	23 人
4	2 月 19 日	地域づくり～事例を通して、交流を深めましょう～ 有限会社 びわこメディカル居宅介護支援事業所 主任介護支援専門員 森田 佳奈 氏	51 人

【参加者の感想】

- ・包括や他職種、地域の方々との関わりを平素から密にしておくことが望ましい。何でも早期発見が大切なことを改めて感じた。(第 1 回)
- ・本人とのコミュニケーションと関係性を深めるためには時間もタイミングも必要であり、ケアマネジャーとして信頼関係を築く大切さを感じた。(第 2 回)
- ・情報収集、情報整理、役割・連携など、その繰り返して支援していくことがよくわかった。(第 3 回)

(3) 病院と地域包括支援センターの事例検討会の開催

事例を通して医療機関ができること、地域ができることを考え学び合うことにより、情報共有を通して病院の地域医療連携室と地域包括支援センターとの連携をより一層図ることを目的とし、年 5 回開催。参加者からは病院と地域包括がお互いの顔を知ることができたなど、事例を通してお互いの意見交換をする場となり、日々の連携につながっている。

回	日付	テーマ	参加者数
1	6月18日	「環境に課題があり受診困難となっていた独居高齢者のケース」	17人
2	8月20日	身寄りのない患者の支援体制の構築について ～回復期リハビリテーション病院への転院調整を通して～	15人
3	10月22日	余命3か月の介護者と両親の支援を限られた時間の中で整える ～両親の介護をするがん終末期の娘に寄り添った支援～	14人
4	12月17日	いま改めて考える三機関の連携のあり方 ～医療機関、ケアマネ、地域包括の役割分担について～	13人
5	2月18日	誰かとつながりは持ちたいが、子に迷惑をかけたくないと思い続けていた独居高齢者の支援～外来看護師と地域包括との連携について～	12人

【参加者の声】

- ・電話でやり取りさせてもらっている病院の相談員の方と顔の見える関係になれた。(地域包括)
- ・事例検討を通して、地域包括支援センターと病院が相互に求める関わりや協働について、共有や検討することができた。(医療ソーシャルワーカー)

ステージⅢ 状態変化に伴う救急対応 ステージⅣ 痛みのコントロール

1 看取り支援の実態調査

看取り支援を明確化するために、令和5年度に居宅介護支援事業所の管理者にヒアリングを行った結果、在宅療養・看取りにおいて訪問看護の担う役割が大きいことがわかったため、令和6年度は訪問看護ステーションに所属するスタッフ全員に調査を実施した。(令和6年度第2回在宅医療・介護連携推進協議会にて報告)

ステージⅤ 看取り支援、ステージⅥ 遺族ケア

1 守山市看取りケア研修会（2回シリーズ）

「住み慣れた地域で最期まで過ごしたい。」という本人の思いに寄り添った看取りケアを実現するために、医療・介護サービス関係者に対し、知識および技術の修得ならびに多職種の連携の強化を目的とした研修会を開催した。

(1) 1日目（第60回 守山顔の見える会との同時開催）

日 時	8月8日（木）午後6時15分から7時45分まで
場 所	守山市役所 1階 多目的ホール
内 容 (講義)	「総合診療医の養成と在宅医療～竜王町で行っていること～」 講師：滋賀県医師会 理事 雨森 正紀 氏
参加者	94人 (職種) 医師：11名、看護師：34名、社会福祉士：1名、薬剤師：9人 介護福祉士（その他介護福祉職を含む）：8名、 介護支援専門員：11名、その他：20名

(2) 2日目

日 時	10月4日（金）午後2時から3時30分まで
場 所	守山市コミュニティ防災センター 1階 研修室
内 容 (事例検討)	「在宅看取りにおける事例検討について」 事例提供者：おうみ在宅クリニック院長 鎌田 泰之 氏 パネリスト：〈ケアマネジャー〉居宅介護支援事業所ふくろうさん 福澤 史朗 氏 〈訪問看護〉ゆうらいふナースステーション 瀧上 操 氏 〈訪問介護〉ゆうらいふケアステーション 下野 達郎 氏 アドバイザー：ふくだ医院 福田 正悟 氏 済生会守山市民病院 野々村 和男 氏
参加者	37人 (職種) 医師：1名、看護師：14名、社会福祉士：3名、薬剤師：4人 介護福祉士（その他介護福祉職を含む）：3名、 介護支援専門員：11名、その他：1名
参加者の声	・今後、増加するであろう独居の方の看取りの現状であり、リアルな事例でとてもわかりやすかった。(看護師) ・病院や包括の方の視点など、いろいろな人の考え方に触れることができた。(介護支援専門員) ・緩和ケアに関する事例を勉強したい。(介護支援専門員)

ステージⅠ～Ⅴ 在宅医療・介護連携にかかる課題の抽出と対応策の検討について

1 守山市在宅医療・介護連携推進協議会の開催（年2回）

本協議会にて在宅医療・介護連携推進事業に対する評価および検討を実施。

	開催時期	主な協議内容
第1回	7月3日（水）	・在宅医療・介護連携に関する主な動き ・令和5年度の実績結果について ・令和6年度の実績方針について ・在宅療養・在宅看取りの実態調査結果について
第2回	2月26日（水）	・令和6年度の実績状況の報告について ・訪問看護ステーションに所属するスタッフが取り組む看取り支援の実態調査結果について ・令和7年度在宅療養・看取りに関する意識調査の質問項目について ・エンディングノートの改定について

Ⅱ 令和6年度の総括

1 エンディングノート出前講座について

ACP（アドバイス・ケア・プランニング）の推進を図るため、エンディングノートの出前講座を実施。「もしバナカード」や「サイ五郎さんちの人生会議カードゲーム」を活用し、グループワークを行い、より自分事として考えることができるように努めた。

2 看取りに関する多職種連携の取組について

多職種連携のさらなる推進を図るため、継続して「守山顔の見える会」を実施するとともに、在宅療養・看取りについて学ぶ機会として、「看取りケア研修」にて市内の看取り事例を通して多職種でディスカッションすることで、それぞれの専門職の役割や多職種連携の重要性について学ぶ機会とした。

Ⅲ 令和7年度の取組の方向性について

(1) エンディングノートについて

「エンディングノート」という名称を含め、内容の再検討を行い、誰でも手に取りやすく書きやすいエンディングノートへ改訂し、さらなる普及・啓発を行う。

(2) 市民への取組について

「在宅で過ごしたい。」「在宅でも過ごせるかもしれない。」と本人や介護者が考え、安心して在宅療養を選択することができるよう、在宅療養・看取りを支えるサービスの啓発に努める。また、医療・介護関係者の連携（守山顔の見える会等）の推進、看取りを支える介護者の不安、必要なサービスについて検討するため、在宅看取りを行った介護者へのアンケートを行う。

(3) 医療・介護関係者への取組について

ACPの啓発を継続的に行うとともに、看取りケア研修会等の研修会を通して、在宅療養や看取りに関する好事例を共有し、在宅療養・看取りの推進を図る。また、医療・介護関係者の連携を強化するため、守山顔の見える会の継続的な開催に努める。